

物語 オーストラリアの歴史

多文化ミドルパワーの実験

竹田いさみ著

1.はじめに、ミドルパワーとは...

ア) 大国、超大国という概念に対し、国際問題が生じた際、積極的に協調策を探ったり、国際世論をリードし、**存在意義を発揮する国**のこと

イ) 日本では、「中級国家」、「中堅国」とも表示

2. 独立記念日が無い(オーストラリア)

ア) 1788年 1月26日(オーストラリア・デー)

イギリス国旗掲揚 →アーサー・フィリップ提督

イギリスの植民地政策が始動

イ) 20世紀からオーストラリアと認識

→それ以前は植民地ごとに名称

3. 独立戦争が無かった理由(オーストラリア)

ア) 独立不必要

→ 英間とはメリット関係(相互依存)

→ アメリカ独立戦争を教訓(イギリス側)

イ) オーストラリアでの植民地建設

→ 独立戦争を招かぬように

白豪主義の国

4. 白豪とは何か

ア) 白豪とは、「白人のためのオーストラリア」

→イギリス系社会を建設

イ) その結果、人種差別国家として認知

5. 移住制限法

ア) 1901年、入国目的が永住と定住であり、
その行為を制限した法律

イ) 日本では移民制限法と表記

ウ) 白豪政策を可能にした法律

6. オーストラリアの国旗

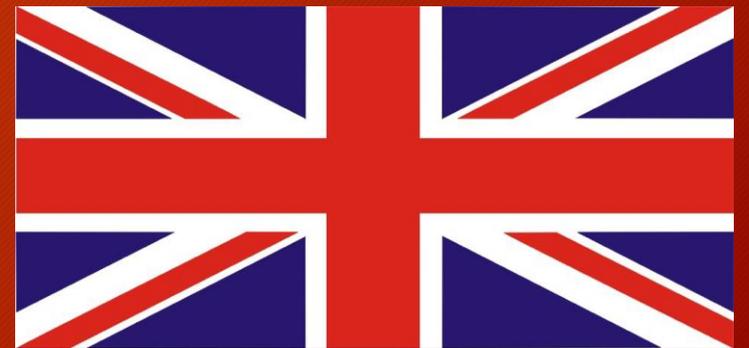
ア) 1950年 オーストラリア国旗の正式使用
(右のオーストラリア国旗: 1903年に制定)

イ) 保守層→ユニオンジャック(イギリス国旗)
自立派→南十字星
中間派→双方

ウ) 首都キャンベラの理由
→2つの大都市シドニーとメルボルンの因縁
の関係



オーストラリアの国旗



イギリスの国旗 (ユニオンジャック)

7. オーストラリア国民の誕生

ア) 1948年 国籍・市民権法を制定(チフリー首相)

→ あえて、翌年の1949年1月26日

「オーストラリア・デー」に発効

→ オーストラリア国民の意識を高める演出

イ) これ以前のオーストラリア人はイギリス臣民

8. 白豪政策への決別

ア) 国際社会での尊敬される地位を取得するため

イ) 「ポイント・システム」の採用

9.ポイント・システムとは

ア) 移民の個人能力を重視した移民の選別方式

イ) 真の狙いは優秀な白人だけを残し、
無駄な白人の排除のため

→結果的にアジア系移民者の大量に増加

熟練度	
各種の資格、学位、ディプロマ、職業経験	50-70
有資格だが職業経験不足の場合	50-60
年齢	
18~49歳（若いほどポイントが高い）	5-30
言語	
英語の運用能力	5-20
受け入れ側（スポンサー）	
申請者との関係	5-15
オーストラリア国籍の取得年数	5-10
居住地域	5
居住期間、独立できる資金力	10
必要とされるポイント合計	115以上

10.大量のベトナム難民を受け入れる

ア)ベトナム戦争による、ベトナム難民に対しての贖罪感

イ)難民を受け入れないで平和は主張できない

(東南アジア諸国連合)

→その結果、アジア系人口の急増へ

11. 多文化ミドルパワーの開花

ア) 1983～1996 労働党が長期政権を築き、黄金時代を出現
→あらゆる局面でアジア地域との一体化が国家への発展へ
〈例〉ブリッジ方式

イ) 大国が関与しない分野や関与しない問題へ切り込む
→ベンチャー型中企業国家の誕生

まとめ

国際社会でのオーストラリアの在り方の模索

現在→多文化主義のスタンス